

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	198人	社会	198人	数学	198人
	理科	198人	英語	198人		

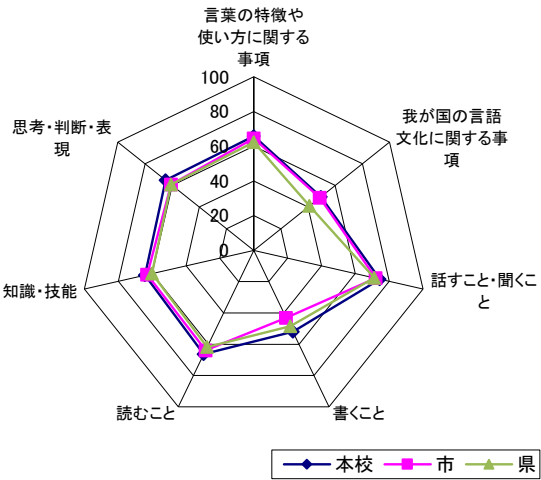
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.8	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	49.5	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	74.5	72.1	71.2
	書くこと	52.0	43.1	48.5
	読むこと	66.3	63.9	61.8
観点	知識・技能	64.2	62.9	60.1
	思考・判断・表現	64.8	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

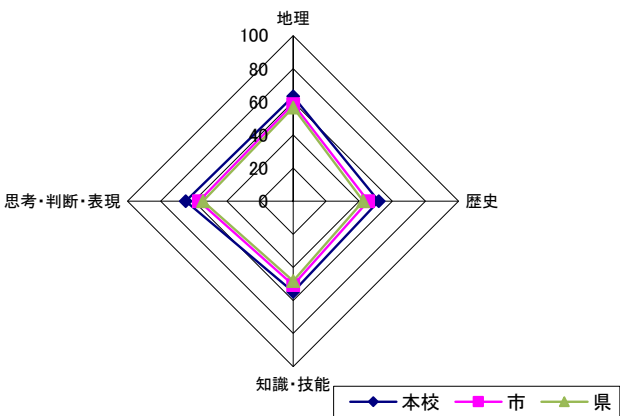
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は、市平均を1.3ポイント、県平均を3.5ポイント上回っている。 ●全ての「漢字を正しく読む問題」において、本校の正答率は市・県平均を下回っている。敬語の働きについて理解しているかどうかをみる問題では、記号問題ではあったが、市平均を1.4ポイント下回っている。	・漢字については、今後も小テストを継続的に実施していく。また、授業での音読・語彙指導を通じて、文脈の中で漢字が使われる場面に意識的に触れさせ、語句の意味と結びつけて覚える習慣を付けさせる。 ・敬語については、日常会話での使用例を通して、敬語の種類と適切な使い方を反復学習し、実践的な演習を増やす。また、敬語の必要性や相手意識を持たせる指導も行い、表現力を向上させていく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は、市平均を0.8ポイント、県平均を8.4ポイント上回っている。 ●「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く問題」において、本校の正答率は49.5%と半数を下回っている。	・歴史的仮名遣いの理解を深めるため、古典作品の音読を授業に積極的に取り入れ、音で仮名遣いの違いに慣れさせる。さらに暗唱・音読指導を通して古典の世界に親しませる指導を継続して行っていきたい。古文や俳句など具体的な教材の中で、歴史的仮名遣いのルールを実践的に学ぶ機会を確保していく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、市平均を2.4ポイント、県平均を3.3ポイント上回っている。 ●「条件に従って話し合いのまとめを書く」問題では、正答率は22.2%と低く、無回答率は10.1%と高い。	・相手意識や目的意識をもって話したり聞いたりする力をさらに向上させるため、グループワークを積極的に導入し、多様な意見を聞き、自分の考えを明確に伝える機会を増やす。 ・発表や話し合いの際には、聞いている人が理解しやすいように構成や言葉遣いを工夫する指導を行い、実践的なコミュニケーション能力の定着を図っていく。また、聞きながら適切にメモを取る練習を継続的に行っていきたい。
書くこと	○平均正答率は、市平均を8.9ポイント、県平均を3.5ポイント上回っている。 ●「自分の考えを根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる」設問の正答率は40.9%であり、市・県平均を上回っているものの、全体の正答率と比較すると依然として課題が見られる。	・自分の考えとその根拠を明確に記述する力の育成に重点を置く。具体的な指導方法として、小作文の機会を増やし、日々の授業や課題の中で、自分の意見や感想をまとめる活動を繰り返し行わせる。他にも、見本となる文章を提示し、構成や表現方法を確認した上で記述する練習を取り入れる。例えば、意見の提示、理由の具体例、まとめといった型を意識させることで、論理的な文章作成能力の向上を目指す。
読むこと	○平均正答率は市平均を2.4ポイント、県平均を4.5ポイント上回っている。 ●「文章の内容を説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く」の設問の正答率は、市平均よりも0.3ポイント下回っている。	・朝の読書や司書によるブックトーク等を通じて、今後も多彩で質の高い文学作品に触れさせる機会を設け、言語感覚を磨かせたい。 ・教科書本文や説明文において、意味段落やキーワードを意識しながら読む時間を確保する。特に、空欄補充問題で問われるような、文章全体の構成や筆者の意図を正確に読み取る練習を繰り返し行っていきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	63.3	58.7	56.6
	歴史	51.8	45.4	42.4
観点	知識・技能	54.8	50.7	48.2
	思考・判断・表現	64.9	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

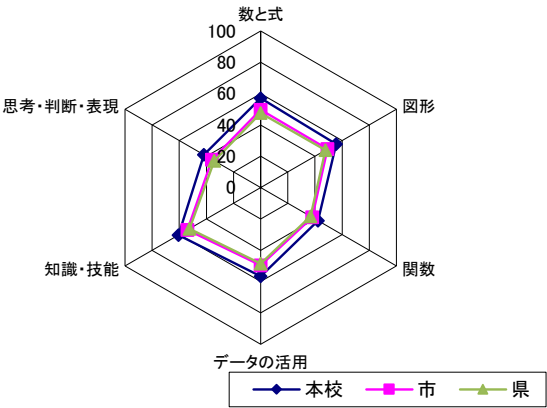
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○地理的分野の正答率では、市平均を4.6ポイント、県平均を6.7ポイント上回っている。 ○すべての設問の正答率が、市平均を11.7～0.1ポイント、県平均を14.7～1.2ポイント上回っている。 ●資料から読み取った内容を基に答える設問の無解答率が高い。問題番号3-4-3の「複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、アンゴラの経済的な課題について表現」させる設問の無解答率が21.2%、3-4-2「資料から、原油の国際価格の変化の特徴を読み取り、表現」させる設問が13.6%、3-4-1「資料から、アンゴラの主な輸出品の割合の特徴を読み取り、表現」させる設問が11.6%となっている。 ●2つの内容について解答する設問の正答率が低い。設問番号3-1の「東南アジアの国々に関する統計資料を読み取り、正しいものを2つ選択する設問」の正答率が20.7%、設問番号1-3の「日付変更線と国との位置関係に着目し、時差」に関して語句と都市名の正しい組み合わせを選ぶ設問の正答率が36.4%となっている。	・世界と日本の地域構成、世界の諸地域についての理解の定着を図るために、学習目標を明示した授業展開とその振り返りを実施し、家庭学習での復習を行わせてきた。これらの学習活動の成果が見られるので、今後も継続していきたい。 ・社会に苦手意識をもつ生徒に対しては、小テストの実施とAIDリルの活用によって、基礎基本の定着を図り、無解答率を減らしていきたい。 ・資料の活用能力をさらに高めるために、授業において、地図、分布図、統計資料の読み取りを丁寧に行う。また、単元のまとめでは、複数の資料を組み合わせることで地域的特色を個別にまとめる活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力の向上を図りたい。
歴史	○歴史的分野の正答率では、市平均を6.4ポイント、県平均を9.4ポイント上回っている。 ○思考・判断・表現の観点についての設問の正答率が、市平均を14.8～4.8ポイント、県平均を18.2～9.1ポイント上回っている。 ●貿易・外交についての設問で市平均の正答率を下回るものがある。問題番号6-2の室町時代の貿易の名称の設問では4.8ポイント、問題番号4-3の東アジアの伝統的な外交関係の設問では1.2ポイント下回っている。	・日本の中世までの学習において、地理的分野と同様に学習目標を明示した授業展開とその振り返りを実施するとともに、単元ごとのまとめとして、歴史新聞づくりなどの活動を行い、その成果が、思考・判断・表現の観点の設問の正答率の高さに表れている。これらの学習活動を継続していきたい。 ・歴史的分野において、外交・貿易について、語句の理解が十分でない点が見られた。東アジアの外交関係を表す朝貢については、江戸時代の末期から明治時代の外交を取り扱う際に、改めて説明することで、理解を定着させたい。また、幕末から現代にかけての日本の外交について取り扱う授業では、国際的な視点で日本の立場の変化を考えることを通して、国際関係への関心を高め、公民的分野の学習につなげていきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	57.1	49.7	47.6
	図形	55.6	49.2	47.7
	関数	42.3	38.0	36.8
	データの活用	56.6	49.6	48.5
観点	知識・技能	60.6	54.0	52.5
	思考・判断・表現	41.9	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

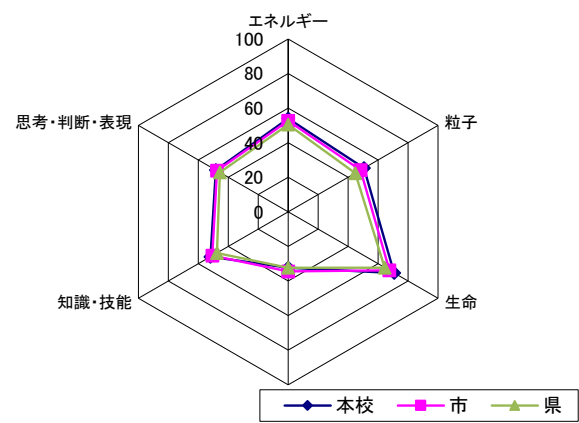
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○全ての設問において市と県の正答率を上回っており、平均正答率は、市平均を7.2ポイント、県平均を9.5ポイント上回っている。 ○「1次式の減法をする」設問では市平均を12.4ポイント、県平均を13.2ポイント上回っている。 ●「与えられた情報をもとに、数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す」設問の無回答率が14.7%であった。	・今後も基本的な計算の定着を図るために、確認テストや学び合い活動などを積極的に取り入れ、反復学習を継続する。 ・与えられた情報をもとに、数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す設問の正答率が低いので、答えを求めさせるだけでなく、どのような計算の工夫をしたか計算過程を説明する活動を設ける。その際、数学的な表現で書くことができるように指導していきたい。
図形	○平均正答率は、市平均を6.4ポイント、県平均を7.9ポイント上回っている。 ○「角の二等分線の性質を理解し、三角形における折り目を作図する」設問では、市平均を12.4ポイント、県平均を11.4ポイント上回っている。 ●「立方体から三角錐を切り取った立体の体積を求める」設問では、県平均は1.6ポイント上回っているが、市平均は1.9ポイント下回っている。	・ICTを工夫して取り入れ、図形の移動を視覚的に捉えられるようにし、よりの確に図形問題を考えられるようにする。 ・おうぎ形の面積をもとにおうぎ形と半径が等しい円の面積を求める設問や、立方体から三角錐を切り取った立体の体積を求める設問の正答率が低いので、公式を用いて値を求めるだけではなく、多面的な見方ができるように指導していきたい。
関数	○平均正答率は、市平均を4.3ポイント、県平均を5.5ポイント上回っている。 ○「比例の式からyの値を求める」設問では、市平均を10.0ポイント、県平均を11.2ポイント上回っている。 ●「比例のグラフの直線が途中で止まっている理由を、yの変域を示して説明する」設問では、市平均を2.1ポイント、県平均を1.0ポイント下回っており、無回答率は29.8%である。	・比例の式から値を求めようと、意欲的に取り組む生徒が多い。今後も式、グラフなどを関連させた問題に多く触れさせたい。 ・与えられた条件から求め方を説明する設問の正答率が低く、無回答率も高い。数学的な表現を用いた説明ができるように設問演習を繰り返していくなど、指導を行っていく。
データの活用	○全ての設問において市と県の正答率を上回っており、平均正答率は、市平均を7.0ポイント、県平均を8.1ポイント上回っている。 ○「度数分布表から、ある階級までの累積度数を求める」設問では、市平均を9.4ポイント、県平均を12.1ポイント上回っている。 ●「ヒストグラムから読み取った傾向をもとに、自分の考えを理由とともに説明する」設問では無回答率が25.3%であった。	・データの分布から度数を読み取ることに意欲的な生徒が多い。今後も基礎基本の定着を図るために、多くの問題に取り組む場面を設ける。 ・ヒストグラムから傾向を読み取ったり、それが表す意味を説明したりすることについて苦手意識をもつ生徒が多い。数学的な表現を用いた説明ができるように設問演習を繰り返していくなどの指導を行っていく。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【理科】分類・区分別平均正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	54.0	52.7	50.5
	粒子	50.6	48.3	44.9
	生命	70.7	67.6	64.4
	地球	32.3	34.4	32.3
観点	知識・技能	51.9	50.7	47.6
	思考・判断・表現	48.3	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

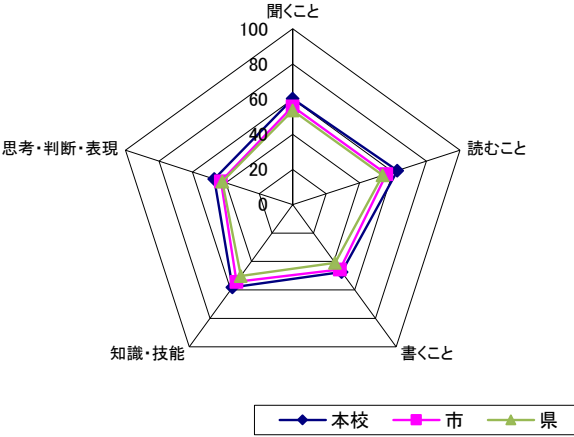
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○平均正答率は、市平均を1.3ポイント、県平均を3.5ポイント上回っている。 ○「ばねの先におもりを付けた時の重力とつり合っている重力について、正しく表している図を選ぶ」設問では、市平均を10.4ポイント、県平均を10.6ポイント上回っている。 ●「実像の名称を答える」設問では、市平均を3.1ポイント下回っている。	・知識の定着を図るために、重要語句の確認を行う。 ・力の大きさとばねの伸びの関係のグラフや、凸レンズの作図の設問などの正答率が低いので、実際に実験結果を用いてグラフを書かせたり、凸レンズの作図の設問に取り組みせたりしたい。 ・エネルギー分野は見えない現象が多くあるので、グラフやモデル等を使って、現象の理解を深められるような指導をしていきたい。
粒子	○平均正答率は、市平均を2.3ポイント、県平均を5.7ポイント上回っている。 ○「状態変化の名称を答える」設問では、市平均を7.5ポイント、県平均を11.1ポイント上回っている。 ●「メスシリンダーの使い方について正しいものを選ぶ」設問では、市平均を3.5ポイント下回っている。	・知識の定着を図るために、重要語句の確認を行う。 ・実験道具の使い方に関して理解が不十分な点があるため、実験の際に使い方に関して十分に説明を行い、実験道具を使わせるようにしたい。実験道具を使う際にも、なるべく全員が実験道具を使えるように支援していきたい。
生命	○平均正答率は、市平均を3.1ポイント、県平均を6.3ポイント上回っている。 ○「節足動物から昆虫類ではないものを選ぶ」設問では、市平均を7.8ポイント、県平均を9.3ポイント上回っている。 ●「両生類と爬虫類について、身に付けた知識を活用して、分類を修正する」設問では、市平均を1.3ポイント下回っている。	・全体的に正答率が高いので、基本的な知識に関しては定着していると考えられる。今後も同様の指導を継続して行っていく。 ・知識は身に付いていても、それを表現する力に課題が見られる。授業中に生徒が自分の言葉で考えたり、説明したりする活動を増やしていきたい。
地球	●平均正答率は、県平均と同じであり、市平均を2.1ポイント下回っている。 ○「緊急地震速報と地震のゆれの伝わり方を結びつけて考え、震源からの距離を選ぶ」設問では、市平均を1.8ポイント、県平均を2.2ポイント上回っている。 ●「3地点の柱状図の様子から、地層の傾斜を推測して選ぶ」設問では、市平均を5.1ポイント、県平均を4.4ポイント下回っている。	・地学分野全体の正答率が低いので、知識の定着を図るために重要語句の確認を行う。また、重要語句を自分の言葉で説明できるような活動も行う。 ・柱状図の空間認識に課題が見られる。実際の露頭の写真やモデルを提示し、生徒が地層の広がりイメージできるようにしたい。また、柱状図の考え方を押さえ、科学的根拠をもとに説明できるような指導を行ってほしい。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【英語】分類・区分別平均正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	60.2	55.8	53.5
	読むこと	62.6	56.0	53.8
	書くこと	47.5	45.6	40.9
観点	知識・技能	58.2	54.3	50.2
	思考・判断・表現	46.9	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○平均正答率は、市平均を4.4ポイント、県平均を6.7ポイント上回っている。 ●問題番号1-3「絵の内容を適切に表している英文を選択する設問」において、市・県平均を共に下回っている。 ●「現地校の生徒のビデオメッセージを聞いて、自分の住んでいるところで食べられる食べ物について書く」設問において、市・県平均を上回っているが、平均正答率は23.7%と低く、無回答率も20.7%と高い。	・まとまりのある英文を聞いて内容を理解するためには、長い英文を聞き慣れることが大切である。教科書のリスニング問題や教科書本文のリスニングを通して、英文を聞いて内容を理解する演習を行っていく。 ・細かなところにも注意を向けて英文を聞けるようにするために、まとまりのある英文を読み、ディクテーション活動を行う。その際、すぐに答え合わせをするのではなく、聞き取った後に確認の時間を設定することで、前後の英文も確認し、適切な型になっているかを考える習慣を付けさせる。
読むこと	○平均正答率は、市平均を6.6ポイント、県平均を8.8ポイント上回っている。 ●「学校生活について書かれた英文を読み、文中の空欄に入る適切な語を書く」設問では、市平均を10.5ポイント、県平均を12.2ポイント上回っているが、無回答率は17.2%と高い。 ●「対話文の中で、適切にbe動詞の過去形(was)を用いることができるかどうかをみる」設問において、県平均を2ポイント上回っているが、市平均を0.3ポイント下回っている。	・まとまりのある文章を読むために行っている教科書本文の予習については、今後も継続して行い、英文を読み慣れさせる。 ・英文を読む際に必要となる語彙や熟語の数を増やしていくために、今後も英単語テストを実施する。 ・人称代名詞の使い分けや時制について理解させるため、演習設問等で生徒に出題し、なぜそのような解答になるのかを生徒に考えさせる。
書くこと	○平均正答率は、市平均を1.9ポイント、県平均を6.6ポイント上回っている。 ●「疑問詞(when)を用いた疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる」設問において、市・県平均を上回っているが、平均正答率は36.9%と低く、無回答率も20.7%と高い。 ●「自分の町のお気に入りの場所について説明するまとまりのある文章を書く」設問において、平均正答率が9.1%と低く、無回答率も22.7%と高い。	・英文を書くにあたっては、文法を正しく定着させることが重要となる。そのため、新出文法のインプット、その文法を使ったアウトプットの機会の充実を図る。 ・まとまりのある文章を書くために、日々の授業で英文を書く活動を取り入れ、短い文章から始め、徐々に長い文章を書かせるようにしていく。また、書くことに対して抵抗感のある生徒もいるので、ICT機器を効果的に活用して書く活動を取り入れることで、成功体験を積み重ねる。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」では、学校全体の肯定的回答が市町全体を3.6%、県全体を5.7%上回っている。「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」では、学校全体の肯定的回答が市町全体を8.4%、県全体を11.1%上回っている。「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」では、学校全体の肯定的回答が市町全体を2.8%、県全体を6.7%上回っている。これらの結果より、家庭学習の習慣化と自律的な学習姿勢の定着が見られ、生徒たちが主体的に学習に取り組む姿勢が育まれていると考えられる。今後も学年で統一して指導を継続していく。

○「授業を集中して受けている」では、学校全体の肯定的回答が市町全体を1.0%、県全体を1.1%上回っている。「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」では、学校全体の肯定的回答が市町全体を5.7%、県全体を6.3%上回っている。「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」では、学校全体の肯定的回答が市町全体を5.9%、県全体を7.4%上回っている。これらの結果より、授業への集中度と積極的な参加意欲が高い水準にあり、自分の考えを表現する場が確保されていることがうかがえる。今後も生徒たちが授業に積極的に関与する場を意図的に設定していく。

○「自分には、よいところがあると思う」では、学校全体の肯定的回答が市町全体を6.1%、県全体を8.3%上回っている。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」では、学校全体の肯定的回答が市町全体を2.3%、県全体を2.0%上回っている。「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」では、学校全体の肯定的回答が市町全体を1.0%、県全体を0.6%上回っている。これらの結果より、自己肯定感が高く、他者を尊重し、良好な人間関係を築いていると考えられる。今後も生徒の自己肯定感を育むような場面の設定や声掛けをしていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」では学校全体の肯定的回答が市町全体を7.6%、県全体を10.0%上回っている。これは、生徒たちが自分の思考を論理的に整理し、文章として表現することに苦手意識を抱えていることを示唆している。各教科の学習や日々のスタンダードダイアリーのやり取りなどを通して、自分の考えをまとめて書く活動に取り組ませながら文章表現力を向上を図りたい。

●情報メディアの利用時間、特にゲーム時間への注意が必要である。「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」では、「1時間以上」と回答した学校全体の回答が市町全体と県全体を1.3ポイント下回っているが、88.6%であった。スクリーンタイムが短い生徒、特に「全くしない」と回答した生徒が全ての教科で最も高い平均正答率を出していることから、長時間の利用が学業や生活習慣に好ましくない影響を与えることを改めて情報提供し、行動の改善につなげていきたい。

●「英語の授業内容はよく分かりますか」では、学校全体の肯定的回答78.3%が、市町全体を0.5ポイント、県全体を1.1ポイント上回っている。しかし、「英語の学習は好きですか」では、学校全体の肯定的回答55.4%が、市町全体を6.1ポイント、県全体を5.3ポイント下回っている。「英語の学習は、将来のために大切だと思いますか」では、学校全体の肯定的回答89.6%が市町全体を1.2%下回っている。これは、英語学習への興味・関心の向上と将来的な有用性を感じさせる指導の必要性を示している。今後の入試システムの変更も考慮しながら、授業内容の分かりやすさから将来への関連付けを行っていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学業指導の充実 ・家庭学習の習慣化	・チャイム2分前着席を徹底する。 ・課題などの提出は徹底を図り、必ず確認して励ましたり個に応じた課題を与えたりする。	・授業に集中して落ち着いて学習することができている。 ・家庭学習の習慣は定着しつつあり、基礎基本の習得ができている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを論理的に構成し、文章として表現する力を養う。	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「宇都宮モデル」に留意した授業の展開や改善に取り組む。	・生徒同士で文章を読み合い、良い点や改善点を指摘し合う活動を取り入れることで、多角的な視点から表現力を高める機会を提供する。 ・全教科において「すっきり」の振り返りの時間で自分の考えをまとめる活動を確保する。